

第32回年次大会

～安心社会に向けて～
私たちが未来をかえる



連合気仙 2021新春旗びらき中止

コロナ禍等により開催が難しいため、2021 新春旗びらきは中止になりました。皆さまにおかれましては、穏やかな新年をお迎えください。

◆連合気仙事務局の閉鎖◆

連合岩手の事務局休業に連動して、事務局を閉鎖します。

2020年12月29日～
2021年1月4日

年次大会には、役員一四名、代議員三八名(内委任七名)が出席した。議長団にU Aゼンセン佐々木純代議員、岩教組佐藤由之代議員を選出した後、梅木博議長は、「新型コロナウイルス感染症防止のため、活動や集会は自粛が求められる、新たな時代の活動、情報共有のあり方に工夫が必要となり創意工夫でこの難局を乗り越え、労働運動の停滞や後退を引き起こさないよう頑張ろう」と訴えた。

鈴木圭連合岩手会長代行からは、九月に発覚した不正経理事案を捉え、「信頼を大きく失墜させ、多大なご心配とご迷惑をおかけすることになった」と挨拶があった。

熊谷昭浩、東壱市大船渡市会議員からご祝辞をいただいた。また、来賓の縮小に伴

二月一日、カメリアホールにおいて、第三十二回年次大会を開催した。来賓には連合岩手鈴木圭会長代行、今春の大船渡市議会議員選挙で再選した推薦議員の熊谷昭浩大船渡市議、東壱市大船渡市議に出席いただいた。二〇二〇年度の活動報告を確認するとともに、二〇二一年度具体的な運動方針案、一般会計予算(案)を審議いただき、提案通り採択がされた。年次大会参加者は、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向け、新型コロナウイルス感染症拡大の災難を乗り越え、地域に根差した運動を推進する決意を確認し合った。

つ、戸田大船渡市長をはじめ関係団体からのメッセージを読み上げて紹介をした。

議案審議では、連合岩手第三十二回年次大会で確認された方針に基づき、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、コロナ禍を見据えた活動になることを想定した中間年の具体的な運動方針として①組織拡大・強化の着実な実践と連帯活動の推進、②政策の実現、ディーセント・ワーク、労働条件の改善、③多様性の尊重、男女平等に実現、④平和運動、福祉社会貢献活動の推進、⑤政策実現に向けた政治活動の推進を掲げ、予算の運営上、見送りとする事業等の提起があり、単組意見交流会の再開、第九一回気仙地区ミーティングの五月一日開催、気仙沼地協を含めた近郊地協との地域交流事業、「二〇二一年新春旗びらき」の中止などを確認した。交付金が未確定になっていることから暫定の二〇二一年度予算案が示された。

最後に、梅木議長長の団結力ンパローを手拍子でおこな

連合労働相談ホットライン

0120-154-052

雇用の不安
雇止め
不安はありませんか?

一〇月二六日に召集された第二〇三臨時国会は、四日間の会期を終え二二日五日に閉会した。新型コロナウイルスの感染が再拡大し雇用情勢も悪化する中、国民の不安を払拭しうる十分な対策が施されないまま閉会となった。今国会は菅新政権の発足、新たな立憲民主党・国民民主党の結党後初の国会として、with/after コロナへの対応など短期・中期の課題に関する本格論戦が期待された。しかし、党首討論も開催されないなど十分な論議が国民に示されなかったことは極めて遺憾である。

政府・与野党は政治の果たすべき役割を強く自覚し、国権の最高機関たる国会の場でその責務を全うすべきである。

所信表明演説で菅首相は「国民のために働く内閣」を

第203臨時国会閉会にあたって

事務局長 談話

相原 康伸

お前らの給料を払っているのは誰だと思ってるんだ！
ここは俺の会社だぞ！

ハラスメント？ひとりで悩んでいませんか？

2021年2月24日(水)・25日(木) 10:00~19:00
フリーダイヤル 0120-154-052

政治は人ごとじゃない！
自分たちの身近な問題を解決するためにあるんだ！

青年委員会 第15回年次総会

12月8日、連合気仙青年委員会は、気仙教育会館において、第15回年次総会を産別単組の代議員の参加の基に開催をした。

大会議長団には、U Aゼンセン新沼皓平代議員、JEC 連合花崎尚代議員を選出、執行部を代表して佐々木委員長は「幹事会が先頭を切って青年の豊かな感性と行動力を生かした活動を精力的に取り組んでいく」と訴えた。連合岩手青年委員会からのメッセージの紹介後、白木澤事務局長提案の2020年度の活動報告、①社会参加活動、②学習活動、③組織づくりと青年活動の活性化の2021年度具体的な活動方針を採択、役員変更を確認して下瀬川委員長のガンパロー(手拍子)で年次総会を閉じた。

残暑が厳しかった一〇月前半を過ぎた頃から気温が上がり始め、一月になると車のフロントガラスが凍っている朝も珍しくなくなってきた。私は一関市室根町に住んでおり、勤務地である大船渡市とは気温がおおよそ五度程度低い。一月ともなると、うちのこの時期の風物詩は蜂屋柿を収穫して作る干し柿暖簾である。そんなに数多くは作らないのだけれども、焼酎を霧吹きで吹きかけながらひとつひとつ優しく揉む作業は、昔ながらの先人の知恵をいただいているような気になり、しばしばコロナ禍を忘れさせてくれる癒しの効果がある。岩手の秋の風がとも心地よいひとときだ。

その一方で、僕の三人の子供たちは首都東京で慌ただしく奮闘中である。高一の長女は英検準一級取得に向けて勉強中。中二の長男はサッカーのクラブチームでメトロポリタンリーグに参戦中。小六の次女は中学受験の準備で塾通いの日々だ。ゆるやかな室根の風をよそに、子供たちの忙しない毎日が過ぎる。コロナ禍のため、なかなか頻りに会うことはできないのだけれど、干し柿を作りながら離れて暮らす子供たちを想うと、流れている時間のスピードの違いに時々頭が混乱してくる。加えて今年はその家族に会って良いのかどうかという正解のない黙考が混乱に拍車をかける。

日本全国で新型コロナウイルスの検査陽性者数が急増しており、年末年始に家族と再会できるかどうかかわからない現状、今作っている干し柿が上手にできたら、ハウス栽培のほうれん草やルッコラなどと一緒に送ってやろう。それに三人への受験用問題集を同封するかどうかは思案のしどころだ。

らど

Id 27